

## 「フロンティア2024」テーマ決定！

青年部

大会実行委員会 委員 齋藤真依



「フロンティア2024青年宣教大会」の開催が発表されました。今回は大会のテーマ聖句である「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」(ヨハネ4章35節後半)から、「**Look up!**」(ルックアップ)をテーマとして掲げています。今回私は実行委員として準備の段階から大会に携わっていますが、

前回の大会には高校生として参加をしました。初めて「青年」という括りに仲間入りさせてもらい、いつものバイブルキャンプとは違う規模で普段関わることのできない同世代のクリスチャンと繋がる機会が与えられたフロンティアは、高校生の私にとってとても印象深い出来事でした。前回のテーマである「Connected ~きつとつながる You and Me ~」を、身をもって体験したのです。

このようにフロンティアに関する楽しい記憶はあるものの、「宣教大会」としてのフロンティアにはあまりピンと来ていない青年も多いのではないのでしょうか。そもそも日常生活において「宣教」とは何だろうとじっくり考えることもあまりないのかもしれない。私も、「宣教」と言われてイメージするのは遠い外国のことでした。日本語で宣教師と呼ばれる人は、いつも海外に渡って福音を宣べ伝える人です。知らない土地、慣れない気候、異なる言語と戦わなくてはならない「宣教」は、偉人や特別な賜物が与えられた人にしか成し得ない偉業のように思えます。祈り支えることや、教会で「伝道」に励むことはできるけれど、「宣教」を担うほどでは…と、「伝道」と「宣教」の違いも曖昧なまま、どこか宣教は遠くで起きていることのように感じます。そんな「宣教」がテーマの大会で、一体神さまは私に何を語られるのだろう。不安に思う方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、神さまはそんなあなたにいきなり「偉大なことを成し遂げなさい」「遠くへ行きなさい」と言い、遠い外国行きのチケットを突きつけるお方でしょうか。ヨハネ4章35節でイエスさまは弟子たちにこう言われます。「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」今私たちが立っているこの場所

が、色づいた刈り入れるばかりの畑だと言うのです。「宣教地ではない」と私たちが思っていた場所が、神さまにとっては最高の宣教地なのかもしれません。「宣教」は知らないどこかで起きているだけの働きではなく、福音を必要としているその場所が宣教の最前線となります。今自分はどこに立っているのか、目を上げなければ知ることもできません。ともに集い、イエスさまの語りかけにこたえ、ともに目を上げましょう。「フロンティア2024 青年宣教大会」で待っています！

(新鎌ヶ谷聖書教会 教会員)

